

# URL:https://www.omachi-sanpaku.com 市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館 友の会の支援により博物館が運用しています。

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

# 秋号



第67巻3号

さんぱく研究最前線 · · · · · · · 2 · 3 · 大町とオオカミ 企画展 · 「山書の世界」開催にあたって · · · · 4

・月長石 (ムーンストーン)

表紙の1枚 ………1

 山博コレクション
 5

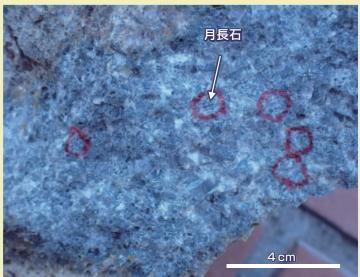
 ・骨の小話シリーズ④
 6

 付属園だより
 6

 ・スバールバルライチョウの人工育雛
 博物館のひろば

 展示・イベントのご案内
 8

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1 TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133 ☑ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp





月長石(赤丸内)を含む木崎流紋岩

月長石の拡大写真

太田 勝一

仁科三湖の西側に位置する山地(仁科山地)に、月長若を含む岩石があることは古くから知られていました。 月長石は青白く輝く関光(シラーともいいます)を発することが特徴の鉱物で、月の光を閉じ込めたと思われたこともあったようです。このため、ムーンストーンとも呼ばれ、大きいものは宝石としてあつかわれます。 6月の誕生石でもあります。

仁科山地の月長石は、「木崎流紋岩」という岩石に含まれています。木崎流紋岩は中綱湖より南側の仁科山地に広く分布する岩石です。日本列島が大陸の一部だった中生代白亜紀の後期(約8千~7千万年前)に、大規模な火山噴火が起こりました。その時に流れ出した大量の火砕流堆積物(高温の火山噴出物が流れ下ったもの)が、自分の熱と重さにより固まった岩石です(溶結

凝灰岩といいます)。この溶結凝灰岩には、サニディンという鉱物が含まれていました。

その後、約6千5百万年前に、今の後立山連峰周辺に広く分布する「有明花崗岩」のマグマが、木崎流紋岩の中に入ってきました。その際、マグマの熱がゆっくり低下する過程で、サニディンは正長石と曹長石という別の鉱物に分離しました(パーサイトといいます)。外から入射した光が、この分離面に沿って反射と屈折を繰り返すことにより、閃光が生じると考えられています。

なお、月長石ができる温度条件は微妙であり、木崎流 紋岩の一部にしか含まれていません。

文献:渡辺・大場・山縣(2017)。長野県大町市に分布する木崎流 紋岩中のパーサイトの成因について、上越教育大学研究紀要,37巻, 183-192.

(市立大町山岳博物館 専門員)

- ◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
- ◆開館時間は、午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)です。
- ◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、「大町市民無料開放デー(長野県民割引)」として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は10月15・16日、11月19・20日、12月17・18日です。この機会にぜひご来館ください。
- ◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名/未就学児/大町市内小・中学校に通う児童・生徒/大町市内在住の65才以上の方と高校生》 このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。



博物館施設案内はこちら

#### さんぱく研究最前線



# 大町ヒオオカミ

(上顎吻端部)

▲ ニホンオオカミの頭骨

#### 幻となった生き物

我々の先祖が「オオカミ」や「ヤマイヌ」と呼ん でいた動物。それは、明治末頃まで人の近くに暮らし、 ある時には恐れられ、ある時には敬われる存在でし た。しかし、それから100年の間に、その存在を知 る人はわずかとなりました。オオカミとはどんな生 き物で、我々の暮らす大町にもいたのでしょうか。

#### 各地に残るオオカミの痕跡

全国各所に「オオカミ」「ヤマイヌ」の名が残って います。魔除けとして、あるいは信仰の対象として扱 われているところもあり、個人あるいは神社のご神体 として祀られるものも見られます。

#### 1.神格化されたオオカミ

秩父の「三峯神社」では、ヤマイヌ・オオカミが眷 属(神様の使い)として扱われています。県内でも 各地に三峯神社のお仮屋が祀られています。

#### 2. 伝承

民話などで、「送りオオカミ」の記録が残るほか、 県内でも駒ヶ根市光前寺のヤマイヌ「早太郎」の伝 承が残ります。

#### 3.ご神体とされた頭骨

全身は全国に数点しか残っておらず、頭骨は全国各 地に見られます。江戸時代のものが多く、県内でもご 神体として頭骨が祀られているところがあります。



▼天龍村神原向方で、 ご神体として祀られ ている頭骨。応永元 (1394) 年、オオカ ミを殺したら良く無 い事が続き、そのオ オカミの首を祀った

ら凶事は治ったことから、それ以来御神体となったと いう伝記が残る。

#### 4. 魔除け



▲頭骨の中には、鼻先部 分(吻端部)のみの物 (根付) も多く見られ ます。個人が、魔除け などに用いていまし た。

#### 5. あなたの家にも?



◀飯田市伊賀良の個人宅で、 神棚に祀られていた、イ 又科動物の頭骨。オオカ ミとして扱われていた。

山住神社のお札▶

発見されるオオカミの 骨は、個人所有のものも 多い。

もしかしたら、あなた の家のどこかにも、眠っ ているかもしれない…。

#### 大町にも??



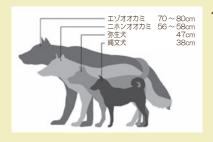
◀博物館の収蔵資料「ヤマ イヌのキバ」。前述の「根 付け」で、江戸末期~明 治初期にかけて大町市八 坂~池田町広津で採取さ れたものと見られる。「魔 除け」として持ち歩かれ たもの。

大町周辺では、骨などの実物が見つかっていませ ん。「ヤマイヌのキバ」はオオカミの物なのか…今 回、解析を行いました。果たして結果は?

#### オオカミとは何か?

そもそもオオカミやヤマイヌとは?昔の人たちは、 単に山で暮らしていた野犬のことを、「オオカミ」や 「ヤマイヌ」と言っていたのではないか?本当にいた のか?そんな疑問を抱く人も多いかもしれない。実 際はどうなのでしょうか。

全国各所に残っているオオカミやヤマイヌと名付 けられた動物の骨を調べたところ、形態やDNAか ら、明らかにイヌとは違うものが見つかりました。 その動物は、「ニホンオオカミ」と呼ばれるようにな りました。



◀推測される体高と 体型比較。日本在 来のイヌより大型 で、北海道に生息 していたエゾオオ カミより小ぶり。

(出典:石黒2012)

#### 大町周辺のオオカミ事情

長野県では、ニホンオオカミとして扱われている頭 骨が5ヶ所で見つかっています(飯田市龍江、天龍村 神原向方、同村坂部、上田、不明1ヶ所)。 大町を含む 中信地域では、骨などの確かな痕跡が見つかっていま せん。大町周辺にはいたのでしょうか?

#### 1. 記録が残る場所と伝承

今回、大町周辺(旧北安曇郡内)の郷土史などの記 録を調査し、オオカミ・ヤマイヌの名前を確認できた 地点を、右図にまとめました。結果、26地点で記録 が見つかりました。



◀明治30年頃、大町周 辺で最後の目撃場所と される池田町広津の馬 捨場(集落で、飼育し ていた牛馬などを埋葬 した場所)。馬頭観音 が残る。(右図21)

#### 2. 主な伝承・民話

①産やしね:ヤマイヌの子どもが生まれると、人にい たずらをしないようにと、重箱に餅や赤飯などを入れ て、ヤマイヌのすみかにもっていった。(場所:小谷 村奉納など)

②送りヤマイヌ:夜道を歩いていると、ヤマイヌがつ いてきた。「ご苦労様、もう帰ってよい」というと、 姿を消した。(場所:佐野坂など)

#### 3. オオカミ・ヤマイヌ=ニホンオオカミではない

かつて日本にオオカミのなかま「二ホンオオカミ」 がいたことや、オオカミやヤマイヌの名前は、大町周 辺にもたくさん残ることが分かりました。しかし、大 町周辺の人々が、ニホンオオカミを指して「オオカ ミ」や「ヤマイヌ」と言っていたのかはわからず、も しかしたら野犬のことをそう呼んでいたのかも…。 果たして、博物館の「ヤマイヌのキバ」はニホンオオ カミのものなのでしょうか。

#### 4. 大町にもいたのか?? DNA解析の結果は??

形態鑑定の結果、日本在来犬よりも大型で、オオカ ミの可能性が示唆されましたが…

DNA(ミトコンドリアDNA)解析の結果は、「イ ヌ」でした。ただし、この解析は、この骨の母方の遺 伝子しかわからないため、もしかしたら、父が二ホン オオカミで、母がイヌの「雑種」であった可能性も否 定できません。



**◆**ヤマイヌのキバとシ ベリアンハスキーの 形態比較。犬歯(キ バ)の大きさや、幅 が似通り、日本在来 のイヌと比べて大型 であることがわかる。



(引用 google map)

▼記録が確認できた 場所(北安曇郡郷土 誌稿などを元に作成)

小谷村 ①奉納

白馬村

②蕨平、

③塩島尾花山

4落倉、5飯森、

6 佐野坂

大町

⑦青木、⑧中綱、

9源汲犬の窪

⑪館ノ内、⑪丹生子 (12)宮本(高瀬河原)

大町 (美麻)

(13)青具、(14)千見

15二重尼子山

大町 (八坂)

16左右

(現長野市信州新町)、

①栃沢、18切久保、

19三原

池田町

20大峯

池田 (広津) ②北山、②大日方

生坂村

②下牛野

松川村

24川西

安曇野市明科七貴 25はちが澤、26荻原

#### 情報求む!

残念ながら、本当のオオカミ(ニホンオオカミ)の 骨ではありませんでしたが、オオカミの名前は大町周 辺に多く残っていることはわかりました。

現在、オオカミの伝承などを知っている人は、わず かな古老の方々のみとなってしまいました。貴重な 地域の記録を風化させないためにも、オオカミについ て知っている、オオカミっぽい骨が家にあったなどの 情報がありましたら、山岳博物館栗林まで!

〔写真提供〕三峰山博物館客員研究員 八木 博 氏 〔参考文献〕石黒直隆(2012)絶滅した日本のオオカミの遺 伝的系統。日本獣医師会雑誌,(65),225-231。栗林勇太・ 石黒直隆(2022)ヤマイヌと呼ばれたイヌ科動物の上顎吻 端部から見る北安曇地方のヤマイヌ・オオカミ事情. 市立大 町山岳博物館研究紀要(7)

# 企画展「山書の世界」開催にあたって

#### 山岳図書資料館 開館 10 周年

平成24年4月20日、山岳博物館の敷地内に山岳図書資料館が開館し、本年度開館10周年を迎えることができました。本資料館は、山岳博物館創立六十周年の記念事業として建設に取り組んだもので、併せて前年に創立五十周年を迎えた長野県山岳協会の記念事業として、建設費の一部並びに山岳図書資料を大町市にご寄付いただき開館の運びとなったものです。

資料館建設の端緒は、長野県山岳協会の皆様等がこれまで収集されてきた貴重な山岳図書の散逸や亡失を防ぎ、市民の皆さんをはじめ登山者や研究者の方へ教育普及や調査に有効に役立てていただき、将来にわたり山岳文化の継承と発展を願う協会の皆様方の熱い思いが、大町市が掲げる「山岳文化都市宣言」や博物館の理念とも合致し、建設に到ったものです。

その後も多くの市民の皆様や山岳関係者 の皆さんから図書のご寄付の受け入れを継 続し、現在では国内を代表する山岳資料を 収蔵する資料館となりました。



山岳図書資料館開館テープカット風景(平成24年4月20日)

山岳図書資料館が収蔵する資料は、山岳に関する書籍の他、地形図、登攀記録などの書類、書簡、登山記録写真及び映像フィルムなど、これまでに約3万5千点を数えます。

今回の企画展では、山岳図書資料館で収蔵・保管する中から、明治以降に出版された希少本や岳人ゆかりの書籍・資料を中心にご覧いただき、あらためて岳人たちが様々な感情を抱いて山への思いを綴った山岳図書資料の魅力に触れていただければと思います。ご来館をお待ちしております。

なお企画展期間中に開催の関連イベントについては、本紙最終ページに記載されておりますので、併せてご参加をいただければ幸いです。

#### 山岳図書資料館のご利用にあたって

図書資料館の閲覧は、博物館の開館時はいつでも ご利用いただけます。また図書の貸し出しにつき ましても一部につき貸出可能ですのでご利用くだ さい。

収蔵資料の目録につきましては、山岳博物館の ホームページにてご覧いただけます。

(URL: https://www.omachi-sanpaku.com)



博物館本館東側に建設された図書資料館



図書資料館内部

### 山博コレクション

# 骨の小話シリーズ④

藤田 達也

骨のお話シリーズも第4弾となりました。

今回は骨と匂いの関係についてお話してみたいと思います。

皆さんは骨格標本の鼻の穴を覗き込んだことはありますか?そこまでしたことがある人は、この読者の中であっても数名程しかいないのではないかと思います。

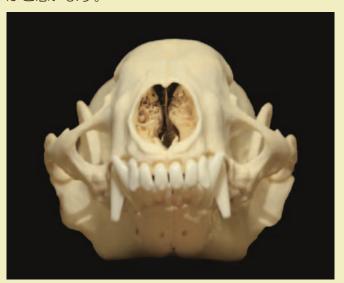
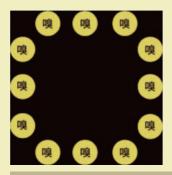


図1. アナグマの鼻の中の写真

イメージしていた様子と異なっていた人が多いのではないでしょうか?スポンジ状の細かい骨がギッシリと詰まっていますね。これは甲介と言い、嗅覚を鋭くするためだと言われています。「えっ、こんな骨があったら鼻が詰まって匂いを嗅げないよ」と思ってしまいますが一体どういうことなのでしょうか?

匂いの感知は嗅神経細胞が担っておりますが、スポンジ状の骨を持つことは嗅神経細胞がくっつくことができる表面積が格段に広がることに繋がり、ヒトでは約4cm²であるのに対して例えば犬では18~150cm²前後になると言われています。



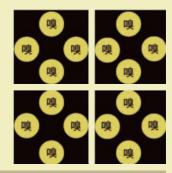


図2. 嗅覚細胞の分布イメージ

この結果、匂いに対する感受性が強くなり、薄まった匂いであっても捉えることが可能になります。

さらに、このような動物たちの多くは、匂いの種類を識別するための遺伝子の数が人の倍以上あることが明らかになっており、より細かい匂いの判別を行うことができるということがわかってきました。

最後に山博で収蔵している他の骨の鼻を見てみましょう。ニホンジカなどは、鼻の穴の入口まで鼻甲介の渦巻き部分が突出しており、この骨の奥にヒダ状の構造がある様子が見られます。動物の種類により鼻甲介の違いがみられることも面白いですね。





図3. 上: ニホンジカの鼻の中の写真下: ニホンジカの頭骨の断面図

ちなみに哺乳類の多くは夜行性で、視覚よりも 嗅覚に頼って生活するためこのような機能が進化 してきましたが、鳥類に関しては視覚を発達させ たため、種類によっては鼻の穴すら塞がっている ものもいます。

これから骨格標本を見た際は、鼻の穴も覗いてみてはいかがでしょうか?

(市立大町山岳博物館 学芸員)

## 付属園だより 秋号 スバールバルライチョウの人工育雛



元気いっぱいな今年生まれのスパールバルライチョウの雛。どんどん大きく、たくましく成長しています。今回は人工育雛で与えている餌や育雛環境をご紹介します。

#### ~餌~





▲ 配合飼料や小松菜を食べている様子

#### 1.配合飼料

メインで与えている飼料はヒヨコフード、山博で作成している配合飼料、RM-4というウサギ用のペレットを混ぜたものです。粒の大きいものは粉状に粉砕し、雛の口に入りやすいサイズにします。沢山食べてもらえるように、そこへ刻んだリンゴや小松菜を混ぜ合わせ嗜好性を高めるようにしています。

#### 2. 小松菜

小松菜は刻み以外にもビン挿しでそのまま与えています。今年の雛は本当に小松菜が大好きで葉の部分だけでなく茎の部分までがつがつ食べています。すごい勢いで食べるので顔が緑色に染まってしまいますが、それもまた可愛いです。

#### ~ 育雛環境 ~

#### 1. 育雛機

育雛機には温室と冷室の2つの部屋があります。 温室にはヒーターが付いており、38~40度に 設定にしています。幼い雛はまだ体温調節が上手 くできないので体を温められる場所が必要です。

冷室には餌、飲み水、砂皿が置いてあり、雛が自由に採食、運動ができるスペースになっています。



▲ 左側が温室、右側が冷室

#### 2. ぬいぐるみ

雛が親の腹下に潜り込むのを再現できるように 温室の奥にはライチョウのぬいぐるみを設置して あります。設置する際は高さを低くしたほうがよ り良いようで、ぬいぐるみと密着しているほど、 包み込まれている感じが増して安心するのでしょ う。

#### 3. UVライト

育雛室内には窓がなく、太陽光が雛に当たることはありません。そこで冷室上部の網蓋の上にUVランプを設置しています。雛が冷室に出て動いているうちにしっかり紫外線が当たるようになっています。

そんな飼育環境下で育つ雛がもう少し大きくなって、皆さんにお披露目できる日が来ることを楽しみにしていただければと思います。

(飼育員 小里玲奈)

# **準博物館のひろば楽**

#### 雪形ウォッチング

令和4年5月15日、29日



新型コロナウイルス蔓延拡大の影 響から令和元年度以来中止を余儀な くされた「北アルプス雪形まつり」 でしたが、今年は3年ぶりに6月4 日、大町市文化会館を会場に盛大に 開催されました。これに伴い、関連 イベントとして雪形ウォッチングも 本年度は予定通り開催され、天気に も恵まれて北安曇地方の春の風物詩 を堪能しました。県内外からの参加 者は、15日は総勢12名、29日は 13名の方々が参加。雄大な北アル プスが水田に映った水鏡を楽しみな がら、安曇野の歴史や地形の成り立 ちなども併せて学ぶ2日間となりま した。

#### 大町岳陽高校野外学習に講師を 派遣しました

令和4年7月7日(木)・8日(金)



大町岳陽高校の野外実習(78名)が親海湿原で行われ、当館学芸員を派遣しました。この授業では、大北地区にある貴重な自然財産についての理解を深めるとともに、湿原の形成ついての二次遷移とは何かについて学ぶ機会となっていて、今年からは前日に事前学習の機会が設けられ、講義をさせていただきました。

実習では、青木湖との関係や湿原の成り立ち、植物と昆虫との関係、 匂いからわかる植物名などを紹介し ながら、郷土の自然を学んでいただ きました。

#### ナラの葉採集

令和4年5月21日(土)、28日(土)



当館で飼育しているライチョウに は、ナラの葉などを使用した特性の 配合飼料を与えています。飼育して いるライチョウの1年分のナラの葉 を採取するのはたいへんですが、毎 年松本山雅後援会の皆様に採取のご 協力をいただき、無事必要量の確保 ができています。ナラの木の提供や 伐採には千年の森自然学校に、葉の 乾燥には池田町ハーブステーション のPolarisAct様にご協力をいただ き、多くの方々の協力があってライ チョウを飼育することができていま す。今年はガールスカウト長野県第 38団や、ぐるったネットワーク大 町の方々にもご協力を頂きました。

#### 大町自然探検隊「水辺の生き物 観察(農具川支流)」

令和4年7月23日(土)



7月23日(土)に、田んぼの間を流れる農具川の支流において、水辺の生き物観察会を開催しました。連日の雨により天候や観察会場の水量などが心配されましたが、当日は晴天となりヤゴやカワニナ、サワガニ、トノサマガエル、カゲロウの幼虫など様々な生き物を採集し、じっくりと観察することができました。

街中にほど近い環境でありながら、水がきれいな場所にしか生息できない生き物が多数見つかり、水質の良さを実感するものとなりました。

※観察が終わった生き物は、元々生息していた環境に逃がしてあげましょう。

#### キャンプ学習に学芸員を派遣 しました

令和4年6月2日(木)、14日(火)、24日(金)



毎年、パネルや実物を示しながら 実施している「青木湖なぞ解き ウォークラリー」を、大町南小学校・ 松川小学校(松川村)大町西小学校 の5年生を対象に実施し、学芸員を 2名派遣しました。青木湖のでき方 や縄文時代の人と青木湖の関わり、 周辺の動物についてクイズを解きな がら学習し、最近の人と自然との関 係も比較しながら考えていただく内 容で、青木湖とその周辺の自然について楽しみながら理解を深めていた だきました。

#### 山岳総合センター共催事業に 専門員を派遣しました

令和4年7月30日(土)



長野県山岳総合センターとの共催 事業「歩いてナゾとき! 仁科三湖は どうできた?」に、専門員を派遣し ました。

青木湖は、約3.4万年前に仁科山 地で発生した巨大崩壊(佐野坂崩壊) で、旧姫川が堰き止められてできた ことは分かっていました。この見学 会では、これまで不明だった、佐野 坂崩壊の形成過程について、現地の 地形と地質を見ながら、参加者の 方々と一緒に考えていきました。ま た、堰き止めの結果、下流側にでき た親海湿原では、湿原の植物につい て参加者の方々からの解説があり、 充実した観察会でした。

#### 令和4年度博物館実習の受け入れ を行いました

令和4年7月30日~8月4日



山岳博物館では、学芸員の資格取 得を目指す大学生を対象として、博 物館実習の受け入れを行っておりま

本年度は5名の実習生を受け入 れ、調査・研究、収集・保管、教育普及・ 展示を軸とした実習を通して、博物 館の仕事について学んでいただきま した。また、近隣の博物館や美術館 を訪問して、様々な形態の展示や資 料の管理方法についても解説いただ き、充実した6日間となりました。

来年度以降も実習の受け入れを予 定しており、将来学芸員を目指す学 生の支援を続けてまいります。

#### 北安曇理科教育研究会の野外研修 に専門員を派遣しました

令和4年8月3日(水)



大北地域の小中学校の理科の先生 方を対象とした野外研修「地層の剥 ぎ取り標本づくり」に、専門員を派 遣しました。

※地層の剥ぎ取りとは、地層の表面に特殊 な合成樹脂を塗って、標本として取り込む 方法です。

旧大町スキー場付近で、50~7万 年前に北アルプスから飛んできた火 山灰層を剥ぎ取りました。地層の状 態によって剥ぎ取りの方法のコツが 異なるため、試行錯誤しながら標本 の作り方を習得しました。今後は、 大北地域に分布する地層の剥ぎ取り 標本が、小中学校の理科授業に活用 されることが期待されます。

#### 企画展「仁科三湖の成り立ち」 ミュージアムガイドを開催

令和4年8月13日(土)



7月23日から10月16日まで開 催している企画展「仁科三湖の成り 立ち」の内容を、担当の専門員が解 説するミュージアムガイドを実施し ました。午前と午後の2回、計16 名の参加をいただきました。

身近な自然である仁科三湖です が、約3.4万年前までは大きな川だっ たと考えられています。その後、三 つの湖に変化したダイナミックな歴 史が展示されています。意外な歴史 について多くのご質問を受けなが ら、仁科三湖の不思議をひもとく夕 イムトラベルをお楽しみいただきま した。

### 展示・イベントのご案内

#### 企画展「山書の世界」

博物館の付属施設「山岳図書資料館」 で保管する山岳図書資料の中から、山 岳関係の書籍を展示し、「山書」の魅力 をお伝えします。

- ■期間 10月22日(土)~ 12月25日(日)
- ■時間 9:00~17:00 (入場は午後4時30分まで)
- ■会場 当館 特別展示室
- ■対象・費用 入館者(ただし、通常 の観覧料が必要です)

#### 講演会 山書の魅力

登山・山岳関係の書籍に造詣の深い 講師をお招きし、山の本の魅力や歴史 について紹介していただきます。

- 10月23日(日) ■期日
- ■時間 13:30~15:00
- 当館 講堂 ■場所
- ■講師 荻原浩司先生
- ■対象 どなたでも
- ■定員 40名(要事前申し込み)
- ■費用 無料

#### ミュージアムガイド

学芸員が展示の見どころなどを解説 します。

- ■期日 11月6日(日) 12月4日(日)
- ■時間 10:30~、14:00~ 所要時間は30分程度、午前・午後 とも内容は同じ。
- ■場所 当館 特別展示室及び図書資
- ■対象・費用 どなたでも(ただし、 通常の観覧料が必要です)

### 常設展「山と美術」

当館が収蔵する、山岳風景画の展示 を行います。

- ■期間 令和5年1月4日(水)~ 4月16日(日)
- ■時間  $9:00 \sim 17:00$ (入場は午後4時30分まで)
- ■会場 当館 特別展示室
- ■対象・費用 入館者(ただし、通常 の観覧料が必要です)

#### ミュージアムガイド

学芸員が展示の見どころなどを解説 します。

- 2月19日(日)、3月19日(日) ■期日
- 14:00~14:30 ■時間
- ■場所 当館 特別展示室
- どなたでも(ただし、 ■対象・費用 通常の観覧料が必要です)

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1 市立大町山岳博物館 編集責任者 鈴木啓助 TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133 E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp URL:https://www.omachi-sanpaku.com

2022

発行日 2022 (令和4) 年9月27日

印 刷 有限会社北辰印刷 〒398-0002長野県大町市大町3871-1 TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010

第67巻3号